

# CO・OP

京都の生協

2023/April/No. 108  
京都府生活協同組合連合会



誰もが安心して暮らせるように

—介護を社会全体で支えようとスタートした介護保険制度、2024年改定に向けた準備がすすんでいます—

**TalkTalk** トークとーく

立命館大学経済学部 特任教授 佐藤 卓利さん  
乙訓医療生活協同組合 理事長  
京都府生活協同組合連合会 会長理事 西島 秀向



TalkTalk  
トークとーく

対談

誰もが安心して暮らせるように

介護を社会全体で支えようとスタートした介護保険制度  
2024年改定に向けた準備がすすんでいます

立命館大学経済学部 特任教授  
乙訓医療生活協同組合 理事長  
京都府生活協同組合連合会 会長理事  
西島 秀向  
佐藤 卓利さん

介護を社会化することを目的に、介護保険法が施行されて今年で23年目。しかし現場では深刻な人材不足などの状態が続いています。そもそも介護保険制度はどういう経過でスタートしたのでしょうか。市民参加の理念は機能しているのでしょうか。いま私たちがすべきことは？ 立命館大学の特任教授であり、乙訓医療生活協の理事長で、学識経験者として自治体の介護保険審議会委員もしておられる佐藤卓利先生に、介護保険のいまについてお話を伺いました。当日は向日市にある国登録有形重要文化財の旧上田家住宅をお借りして対談をおこないました。

アメリカの労働組合史から社会政策、医療・介護問題へ

西島 今日とはよろしくお願ひいたします。先生もこの旧上田家住宅は初めてですか。  
佐藤 以前、向日市に住んでいました。このあたりにもよく散歩に来たのですが、こんなに素晴らしい文化財があることは知りませんでした。今日、拝見させていただけてよかったです。  
西島 先生は介護保険が始まる前から自治体の審議会委員を務められ、医療・福祉関係者や地域住民、行政関係者と関わってこられました。どういったご研究をしてこられたのですか。  
佐藤 大学院での修士論文のテーマは「アメリカ自動車産業労働組合成立史―1920年代・30年代の研究」でした。1920年代・30年代というのは、どんな時代ですか？  
佐藤 世界的にみると大戦（たか）前期と行って、第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期ですね。大英帝国に代わりアメリカが事実上、世界のトップになっていく転換期で

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

誰もが安心して暮らせるように  
―介護を社会全体で支えようとスタートした介護保険制度、2024年改定に向けた準備がすすんでいます― ..... 2

食べたいせつの取組

きょうと食の安心・安全フォーラム  
～「信頼で彩る京の食」をテーマに開催 ..... 7

親子オンライン食育企画  
地場野菜生産者との交流&親子ミニクッキング開催 ..... 7

2022年度京都府食の安心・安全意見交換会 ..... 7

2023年京都府生活協同組合新春交歓会開催 ..... 8

TOPICS

体感型防災アトラクション  
「ザ・リモート 地震対策編」共催 ..... 10

京都府、京都生協、京都府生協連の  
定期協議と物資調達机上訓練・意見交換 ..... 10

関西地連 非常用通信機器（MCA無線）訓練 ..... 10

各会員生協との相互連絡防災通信訓練を実施 ..... 10

2022年度 関西地連「大規模災害対策連絡会」 ..... 10

コープ御所南ビル防災訓練 ..... 10

学習会「ゲノム編集・遺伝子組換え食品について」  
開催 ..... 10

農林水産省近畿農政局との意見交換会 ..... 10

新型コロナウイルスワクチン職域接種 ..... 11

マスク関係者との懇談会 ..... 11

きょうざれん「第4回ひとりぼっちをつくらない  
社会をめざす集い」 ..... 11

学習会「ケアラーの実態と支援について考える」  
開催 ..... 11

京都府（市）食品衛生監視指導計画案  
パブリックコメント ..... 11

京都府生協連 第44回「京都の生協活動を豊かに  
発展させる協議会」 ..... 12

おもな行事のお知らせ ..... 12



京都府生活協同組合連合会 会長理事  
西島 秀男

もありです。都市化と大量生産・大量消費の、いわゆる「アメリカ的生活様式」の基礎がつけられた時代。日本が敗戦後の高度成長期に取り入れたモデルがつけられた時代ですね。

**西島** 一家に一台、自動車を、フォードT型モデルを、ですね。

**佐藤** そうです。そんな研究をしていたのですが、大学院

を出て最初に赴任したのが広島女学院大学で担当は生活経済論でした。バブル真つ盛りの頃です。そこでアメリカの過去よりも、日本のいまの暮らしにどんな課題があるのか、生活の豊かさの観点から社会保障の状況はどうなのか？

そういう講義をしていたのです。その後、1年間イギリスに留学する機会をいただき、イギリスから日本に戻

て来た1990年代はちょうど高齢化に対応して介護問題が切実になっていた時代でした。介護保険制度がまさに準備されようとしていた時代です。私も広島で医療・福祉関係の人たちと一緒に勉強する機会を得て、90年代からは主に医療・介護問題を中心に研究分野を広げていくことになりました。

介護の制度はありました。それは老人福祉法に基づいて、介護が必要な高齢者を施設に入所させたり、ホームヘルパーを派遣したりするものでした。入所の判断は行政がこない、所得に応じて利用者の負担が違っていました。財源は税金で責任は行政です。しかしこれは身よりのないお年寄りや生活に困窮している高齢者の利用が優先され、家族がいて所得のある高齢者は、事実上使用できない、と「高齢社会をよくする女性の会」などの市民団体が厳しく批判した

## 介護保険のスタートと制度的問題

**西島** 介護保険とのかかわりについてお聞かせください。

**佐藤** かつて「介護」とは個々の家庭が抱えているもので、社会的な問題と意識されることは少なかったと思います。人々が高齢者介護の問題を知ったのは有吉佐和子原作の映画『恍惚の人』（1973年）くらいからじゃないですかね。それが日本社会全体の高齢化と共に、1980年代後半から状況が大きく変化してきます。

**西島** そして介護保険がスタートするのが2000年で

すね。

**佐藤** 自治体ではその2年くらい前から準備段階に入っていました。「各市町村で介護保険事業計画を作成し、3年ごとにつくりかえなさい。厚生労働省（当時は厚生省）は基本設計は描くけど、それを具体化する介護保険の保険者、運営の責任は各市町村ですよ」と。

介護保険の一つの特徴は、市民運動の反映で、お役所が一方的に決めるのではなく市民参加の策定委員会をつくって、医療・介護の関係者、サービスを受ける住民、被保

険者もそこに加わるという設計の制度です。私は一応、学識経験者という立場で、向日市と草津市でも審議会の委員になりました。

**西島** 大卒の市民参加というのは、いい仕組みですね。

**佐藤** 市民・利用者もその運営にかかわるといって考え方は良かったのですが、実際の運営には多くの問題があったのです。まず保険制度の大きな限界は、利用があくまで保険料を払っている人だけに限られるということです。

介護保険の以前にも公的な



介護の制度はありました。それは老人福祉法に基づいて、介護が必要な高齢者を施設に入所させたり、ホームヘルパーを派遣したりするものでした。入所の判断は行政がこない、所得に応じて利用者の負担が違っていました。財源は税金で責任は行政です。しかしこれは身よりのないお年寄りや生活に困窮している高齢者の利用が優先され、家族がいて所得のある高齢者は、事実上使用できない、と「高齢社会をよくする女性の会」などの市民団体が厳しく批判した



立命館大学経済学部 特任教授  
乙訓医療生活協同組合 理事長  
佐藤 卓利さん



わけです。

じゃあ一般の市民はどうしていたかというところ、一つは家族が抱え込むわけです。もう一つは、介護が必要になる原因はたいてい病気がケガですから、病院に入院します。そして病院での治療が必要なくなつてからも入院を続けざるを得ない患者が増えていった。入院の長期化です。家族にとっては、病院にいれば直接の介護の負担は軽減されます。かつ費用の大半は医療保険がカバーしてくれます。問題はどこにあるか？というところ、医療費が年々増え続けること

です。医療費の増大に伴って医療保険の保険料と税の負担も年々増え続けました。厚生労働省が介護保険に真剣に取り組んだもう一つの理由は、高齢者介護を社会的に支えるという理念とは別に、財源問題だったと思います。医療費がそのままと膨らみ続けるから、医療と介護を切り離そ

## 介護保険に関心を！ 審議会へ参加・傍聴を！

うとしたのです。介護の社会化は介護保険でなくても、福祉の制度を充実させることで公的責任の介護サービスを実施することもできたのですが、最終的には介護保険になりました。

人にとって介護問題はまだ他人事だったのだと思いますね。税金だとか何に使われるかわからないけど、自分が払った保険料が介護に使われるほうが賛成しやすいだろう、それに保険料を払っていたらいざという時には自分も介護サービスが受けられますよ、ということが強調されましたね。

れます。親が入院している病院からは、「いついつまでに、退院してください」と言われます。そこで介護保険の申請をしましょう、ケアマネジャーに頼んでケアプランをつくりましょう。で、ケアマネジャーってどこにいるの？となるわけです。

西島 多分、そういう流れになると思いますね。

佐藤 市はリストをくれます。「ここがいい」とは言いません。「このなかから自分で選んでください」と。選ぶ基準は？ せいぜい地域の知り合いからの情報を参考にするといいですね。地域に何かしら人とのつながりがあればいいのですが。

西島 生協に入っていたら生協の仲間に聞こう、となりますが、つながりがなければ困るでしょうね。

足りません。制度と制度の間を埋めるようなものが必要ですが、というわけです。

同時に厚生労働省は「自助・共助・公助」という考え方を示しました。まずは自分でできることをやりましょう。それでできないことは近所で

佐藤 ところで、各自治体の介護保険の計画はどこで決められているかご存じですか？

西島 介護保険審議会ですか？

佐藤 自治体のホームページにアクセスすると各審議会の一覧があり、介護保険事業計画策定委員会というような名称の審議会が、介護保険の計画を作成し実施しチェックすることになっていたりとかあります。さらにどこの市町村でも、この審議会には住民代表としての委員の公募があり、参加することができなのです。審議会は傍聴が可能です。審議会が開かれると議事録が作成

され公開されます。でも傍聴者はほぼゼロです。ほとんどの市町村でもそうだと思います。1人、2人はだいたい議員です。市民参加と理念は立派ですが、現実にはほとんど知らない。関わる機会もほとんどないです。それではいつ

## 自助・共助・公助

佐藤 介護保険ができて十数年が経ったところで、厚生労働省から「地域包括ケアシステム」という考え方が出され

ました。介護保険だけでは十分な介護は受けられません。介護保険という枠のなかでしか供給できないし、絶対量が



助け合いましう。遠慮せず「助けて」と言える環境をつくりましょう。では公助は？それは最後のどうしようもない時です、というわけです。本来は生存権の保障、人間らしく生きる権利を国民一人ひとりに保障する。その立場から介護・医療を考えるべきなのです。そのことと自分たちができる範囲で助け合いを

## 人材確保問題

## 介護労働者の評価が低い理由

することは矛盾することではないはず。けれど順番が決められています。まず自助でということですね。この考え方は、多くの日本人に浸透しています。これを変えていく必要がありますが、なかなか難しい。

西島 すぐに人に頼ってはダメ、まずは自分で努力しなさい、みたいな文化がありますから。佐藤 日本社会では何か権利を主張すると、「あいつは変わったヤツだ」と見られがちです。でもこれからの高齢社会は、これまでの生活スタイルや考え方を変えていかなければ、高齢者を含めたすべての人が生きやすい社会は実現しない、と思います。

西島 介護現場ではいま、人材不足がまったなしの状態に

なっていますがこれについては。佐藤 介護はもともと家族がやっていた無償の労働でした。それが介護保険という制度がつくられて介護が社会化され、労働者の「仕事」としてサービスを提供するようになりました。ところが、誰にでもで

きる、という誤解があつて、介護の仕事をする人たちの社会的評価や経済的評価が低い。給料が低いでなく、労働条件も大変厳しい。そのため

市・野洲市の湖南4市で介護事業を展開する事業者が集まって介護人材確保について考える協議会をつくってあります。そこに各市の介護保険担当の職員も加わって、介護人材確保のための取組みを進めています。介護人材の確保は個々の事業者単位の努力だけでは進みません。ともすると人材の取り合いになります。人材を定着させるために、いい経験に学び、どうやって育てるか。行政を巻き込み、住民も巻き込んで、その地域の共通課題として介護人材を育成して確保しようという動きが始まったところ。みなさんもぜひ自分の市町村では今度はいつ審議会があるのかホームページで調べて、みんなで傍聴に行ってみてください。そして市民委員の公募があつたら手を挙げて積極的に参加してください。

にいま介護の現場はどこも人材不足です。私が暮らしている滋賀県では、草津市・栗東市・守山

さされました。この「意見」は、厚生労働省のホームページからダウンロードできます。40ページ余りの大部なもので、読むのなかなか大変かもしれませんが、ぜひ目を通していただきたいと思ひます。

西島 2000年に施行された介護保険法ですが、3年1度、法改正が実施されてい

## 2024年介護保険制度の改正

西島 2000年に施行された介護保険法ですが、3年1度、法改正が実施されてい

ます。2024年に改正される内容が議論を呼んでいます。具体的にはどのような

ところが課題なのでしょうが？佐藤 昨年12月20日に厚生労働省の社会保障審議会介護保険部会が、「介護保険制度の見直しに関する意見」を発表しました。そこで2024年度の改正に向けての論点が示

されています。この「意見」は、厚生労働省のホームページからダウンロードできます。40ページ余りの大部なもので、読むのなかなか大変かもしれませんが、ぜひ目を通していただきたいと思ひます。いくつかの論点が提起されていますが、わたしが注目するのは「給付と負担」という項目で、高齢者の負担能力に応じた負担の見直し、制度間の公平性や均衡等を踏まえた給付内容の見直しが述べられています。それぞれ「見直し





「見直しに積極的な立場から」の意見と「慎重な立場から」の意見と

## 生協の課題

**西島** 今日のお話にもありませんように生協は人と人とのつながりが基本ですが、生協全般について、何か感じてもらえることはありますか？

**佐藤** 乙訓医療生協の理事長としての私が取り組みたいと思っ

ているのは、協同組合間協同の促進ですね。購買生協、高年齢者生協と、私たち医療生協は、医療・介護で重なっている事業の部分があります。日常的な交流をもっと深めて、事業として一緒にやれること、運動や活動として一緒にやれることを検討する。テーマに沿ったアイデアを出し合ってみる。そんなことができれば

護サービスの利用者でもある、また保険料の負担者であり納税者でもある国民は「負担と給付」についてしっかり考え、もっと大きな声を上げるべきではないでしょうか。それには何よりも「見直し」の内容を具体的に知ることですが、時間がなかったので詳しい説明は省くとして、どうやらこのままでは、保険料の引き上げ、利用者負担の引き上げがなされそうです。

2024年度に第9期の介護保険事業計画が実施されますが、前年度の今年4月から各市町村では、第9期計画策定のための審議会が開催されます。ぜひ審議会を傍聴され

て、各委員がどのような発言をするのかチェックし、また審議会とは別の機会にでも、分らないことは遠慮なく行政の担当者に聞いてほしいと思います。おそらくその対応の仕方や回答の内容によって、お住いの市町村の力量が分かるのではないかと思います。

市町村は、介護保険の保険者である前に住民の暮らしを守る基礎自治体なので、市町村に自分たちの暮らしの課題を投げかけるとともに、より良い介護保険制度の実現のために国に対して住民の暮らしを守る立場から意見を上げるよう促すことも必要かと思

っています。コロナ禍も3年が過ぎ、いつまでも活動を制限するわけにはいきませんので今年度は組合間の交流ができればいいなと思っています。

**西島** 京都府生協連としてもぜひ積極的に受け止めて、つながりの場を持つなどしていきたいと思

### プロフィール

**佐藤卓利** (さとう たかし)



立命館大学経済学部経済学科 特任教授

乙訓医療生活協同組合 理事長

#### 学歴

1979年3月 立命館大学経済学部卒業

1984年3月 立命館大学大学院博士課程修了

2009年11月 京都大学博士 (経済学)

#### 研究テーマ

介護保険と地域包括ケアシステムの研究、医療福祉生活協同組合の研究

#### 著書 (主なもの)

『高齢時代の地域福祉プランーわたしたちがつくる老人保健福祉計画』北大路書房、1995年 (共著)

『介護サービス市場の管理と調整』ミネルヴァ書房、2008年 (単著)

『介護サービスマネジメント』ナカニシヤ出版、2013年 (共著)

『医療福祉生協による地域包括ケアの展開』萌文社、2015年 (共著)

『協働する地域』晃洋書房、2020年 (共著)

今回の対談は国登録有形文化財「旧上田家住宅」でおこないました。

国登録有形文化財「旧上田家住宅」は、史跡長岡宮内裏内郭築地回廊跡の上に位置する旧家です。

明治43(1910)年に主屋や内蔵、外蔵が建築され、旧国鉄の新線計画に伴い、昭和17(1942)年に約190m東方から現在の場所に移転しました。

敷地内には移築された建物(主屋、内蔵、外蔵)と移転後に新築された建物(離れ、門、塀)が並びます。

平成28(2016)年に史跡長岡宮跡の公有化に当たり、所有者から市が建物の寄贈を受け、その後、平成31(2019)年3月に、都市近郊の伝統的な形式を有した農家住宅として格調高く整えられていることから、5つの建物と塀が国の有形文化財に登録されました。

(京都府向日市ホームページより抜粋)



京都府生協連・川村幸子理事

きょうと食の安心・安全フォーラム  
「信頼で彩る京の食」をテーマに開催

2023年2月7日(火)、京都経済センターとオンラインで開催されました。主催は、きょうと食の安心・安全フォーラム実行委員会(京都府、「一社」京都府食品産業協会、NPO法人コンシューマーズ京都、京都鶏卵・鶏肉安全推進協議会、京都府生協連)。行政、事業者、消費者が連携して、府民の食の安心・安全の確保に向けて貢献している事を府民に周知することを目的に開催し、今回は16回目。96人が参加しました。

(一社)京都府食品産業協会・山本隆英会長が開会あいさつ。京都府農林水産部農政課・渡邊昌英参事が「京都府における食の安心・安全の取組み」について報告しました。つぎに、菓子製造・販売の株式会社たにぐち・谷口容造取締役会長と、同・谷口晴弥代表取締役から「株式会社たにぐち」の食の安心・安全対策と未来への取組みについて報告。つづいて、「農場HACCPに取り組んでもうすぐ3年」安全・安心な卵を生産するための三和農場での取組みをテーマに、京都鶏卵・鶏肉安全推進協議会・地協準一常務理事より報告のあと、意見交換をしました。

参加者からは「事業者の方の、消費者によりよい商品をお届けしたいという気持ちが伝わってきた。今は物価高騰や鳥インフルエンザなど、厳しい状況だが、事業者と行政、消費者との情報共有の場は、意義があると思う」などの感想がありました。

京都府生協連・川村幸子理事が閉会のあいさつをおこないました。

親子オンライン食育企画  
地場野菜生産者との交流&  
親子ミニクッキング 開催

2023年2月18日(土)、オンラインで、地場野菜生産者との交流や親子クッキングを通じて、食に対する関心を深めることを目的に開催しました。主催は京都生協・京都府生協連。共催は京都府協同組合連絡協議会。親子32組、89人が参加。京野菜生産者の西村農園・西村九三男さん、奈津子さんご夫妻の紹介後に、農場等の紹介動画を視聴。事前に自宅までお届けした野菜(キャベツ、京むらさき大根)を使用してオンラインから流れる画像を見ながら、キャベツの蒸し焼き等のミニクッキングをおこないました。つづいて、西村農園への質問や今回の企画内容について交流しました。参加者から「キャベツの芯はいつも捨てていましたが、今日食べて甘くて美味しいとわかりました。大根も子どもがパクパク食べていたのでびっくりしました」「子どもたちが丸ごと大きな

キャベツや京むらさき大根を見たのも切ったのも初めてだったのでワクワクしていました。最初は、切ることを怖がっていましたが、きれいに切れると喜んでいました。味も甘く、美味しくてたくさん食べました。西村さんの畑のようすや成長の過程も勉強になりました。京都府生協連・川村幸子理事が閉会のあいさつをおこないました。



自宅に届いたキャベツを持ち上げ、記念撮影

2022年度京都府食の安心・安全意見交換会

2022年12月13日(火)、第3回の意見交換会がオンラインで開催されました。「高病原性鳥インフルエンザの発生と府民等への正しい知識の普及・啓発」と、「京都府みどりの食料システム基本計画(仮称)の策定」についてそれぞれ説明があり、意見交換しました。NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連から6人が参加しました。

2023年2月17日(金)には、第4回がオンラインで開催されました。

「令和5年度京都府食品衛生監視指導計画」について報告があり、意見交換のあと、「京都府みどりの食料システム基本計画(中間案)」について、情報提供がありました。NPO法人京都消費生活有資格者の会、新日本婦人の会京都府本部、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連から9人が参加しました。

# 2023年 京都府生協連 新春交歓会開催



京都府生協連・  
畑忠男副会長理事



京都商工会議所中小企業支援部・  
神保泰宏部長



京都府府民環境部・  
益田結花部長



京都府生協連・  
西島秀向会長理事



京都府生協連・  
川村幸子理事

1月7日（土）、京都J Aビルで京都府生協連2023年新春交歓会を3年ぶりに開催しました。

川村幸子理事が司会を担当、西島秀向会長理事が「人と人、組織と組織との連携を活かし、平和とよりよい生活のために事業と活動をすすめます」と開会のあいさつをのべ、高取淳専務理事が会員生協の役員を紹介しました。

来賓として、京都府府民環境部・益田結花部長からごあいさつをいただきました。

地元選出の国会議員のみなさまはじめ、府議会議員、市議会議員の方がご出席くださり、高取淳専務理事からご紹介をさせていただきました。京都商工会議所中小企業支援部・神保泰宏部長から乾杯のごあいさつをいただきました。

行政や議員のみなさんはじめ、79人の方にご出席いただきました。

さいごに畑忠男副会長理事が閉会のあいさつをのべました。



会員生協役員の紹介

祝電・メッセージをいただいた方

(敬称略・順不同)

衆議院議員	自由民主党	本田 太郎
衆議院議員	公明党	竹内 讓
衆議院議員	国民民主党	前原 誠司
衆議院議員	立憲民主党	泉 ケンタ
衆議院議員	立憲民主党	山井 和則
衆議院議員	日本共産党	こくた 恵二
衆議院議員	無所属	北神 圭朗
参議院議員	立憲民主党	福山 哲郎
参議院議員	日本共産党	井上 さとし
参議院議員	日本共産党	倉林 明子
国民民主党京都府総支部連合会	会長	前原 誠司
京都府農業協同組合中央会	会長理事	中川 泰宏

ご出席いただいた国会議員のみなさん

(順不同)



衆議院議員無所属・北神圭朗さん



衆議院議員自由民主党・勝目康さん



参議院議員日本共産党・井上さとしさん



参議院議員日本共産党・倉林明子さん

ご出席いただいた京都府会議員・京都市会議員

(敬称略・順不同)

京都府議会議員	公明党	林 正樹
京都府議会議員	日本共産党	西脇 郁子
京都府議会議員	日本共産党	山内 佳子
京都市会議員	公明党	川嶋 優子
京都市会議員	日本共産党	玉本 なるみ



今年もよろしく



微炭酸飲料「CO・OPリフレッシュ」で乾杯！



なごやかに歓談



ご無沙汰しています

体感型防災アトラクション  
「ザ・リモート地震対策編」  
共催



京都府生協連事務所から2台のパソコンを使用して、体験しました

2023年2月18日(土)

の午前と午後の2回、オンラインで開催され、111組187名が参加しました。

主催はこくみん共済coop(全労済)京都推進本部、共催は京都府生協連。

年々増加する台風や地震などの自然災害。今回のイベントは、家にいながら、パソコン等のリモートで参加できる、「リモート型アトラクション」として開催されました。小学4年生から参加ができる内容で、家族みんなで映像体験やクイズなど、楽しく学びながら防災意識を高める内容でした。

参加者からは、「防災について家族で話す機会になりました」「防災の備えを再点検する機会になりました」などの感想が寄せられました。

京都府、京都生協、京都府生協連の定期協議と物資調達机上訓練・意見交換

2022年12月15日(木)

災害発生時、円滑に応急対策物資の調達等ができるよう情報伝達の訓練と定期協議を、三者(京都府、京都生協、京都府生協連)で実施しました。京都府と京都府生協連は、災害時における応急対策物資供給等に関する協定を1997年に締結しています。

関西地域 非常用通信機器(MCA無線)訓練

2023年3月8日(水)

日本生協連関西地域、京都府生協連、京都生協の間で訓練を実施しました。通信機器の基本操作ができる人材を増やすこと、機器の状態やよりよい使用環境を把握すること、情報伝達の運用面におけるノウハウならびに課題を把握し、参加生協間で共有することを目的に実施。

各生協の被災状況集約(職員への安否確認など)を伝達しました。

各々の機器状態は良好で、また機器操作と情報のやりとりの面でも特段問題なく訓練を終了しました。

各会員生協との相互連絡防災通信訓練を実施

2023年1月19日(木)

午前7時に京都市内を震源とする震度6強の地震発生を想定。家屋の倒壊・道路の寸断・火災発生等も想定し、会員生協との間で「職員の安否確認・被害状況確認・対策本部の立ち上げ等」について非常用通信機器(MCA無線)やFAXを活用した訓練を実施しました。当日は8時45分、京都府生協連事務所内に対策本部を立ち上げ、会員生協から連絡を受けました。

2022年度 関西地域「大規模災害対策連絡会」

2023年2月16日(木)

全国生協BCPの推進、相互協力のあり方と支援、生協の災害対策などについて学び、交流することを目的に開催されました。「全国生協BCP各エリア版の見直しの進め方について」「ならこープで発生した重大なシステムトラブルへの対応について」「事業継続にむけての取組み」「ならこープこうべのBCP見直しに向けて」「神戸市災害時物資供給訓練に参加して」の報告があり、意見交換しました。

こーぷ御所南ビル防災訓練

2023年2月9日(木)

午前7時45分に1階店舗総菜作業場から火災発生との想定のもとに各テナントに入っている業者、店舗職員含めて避難訓練と消火器訓練をおこないました。京都府生協連・高取淳専務理事、九鬼隆一事務局長が参加しました。

学習会「ゲノム編集・遺伝子組換え食品について」開催



日本生協連品質保証本部 安全政策室・中川英紀氏

2023年2月9日(木)、オンラインで開催。役員等24人が参加しました。西島秀

向会長理事が開会のあいさつをおこない、日本生協連品質保証本部・安全政策室・中川英紀氏から「ゲノム編集・遺伝子組換え食品について」をテーマに、ゲノム編集食品を巡る動向、ゲノム編集と遺伝子組換えの育種方法の違い、国の考え方や日本生協連の対応等について報告があり、意見交換しました。参加者から

は、「人手不足や食料不足解消の解決につながることを考えると開発も必要かと思えるが、開発をされる場合、安全性について等の情報開示が必要だと思う」「国への届け出だけで流通させてもよいというところに矛盾を感じています。消費者としてせめて選択できるように表示してほしい」等の意見がありました。

農林水産省近畿農政局との意見交換会

2023年3月1日(水)

オンラインで開催しました。この意見交換会は、1998年から開催しており、今年で24回目。近畿農政局からは、出倉功一局長はじめ3人の方が、生協から近畿地区5府県の生協連などから、役員26人が参加しました。

開会にあたり、近畿農政局・出倉功一局長と、近畿地区生協府県連を代表して京都府生協連・西島秀向会長理事があいさつをのべました。出倉功



近畿農政局・出倉功一局長

一局長からは「食料の安全保障とみどりの食料システム戦略について」の情報提供があり、生協からは、「(株)みんなの牧場」への関わりと『鳥取みんなのつながり和牛』の取組み(滋賀)、「組合員と生産者で共に取り組む持続可能な生産と消費(大阪)」コロナ禍に対応した生産者とのオンライン交流(京都)から報告があり、意見交換しました。



池田孝(当時) 京都府生協 商品部推進担当  
池田孝(当時) 京都府生協 商品部推進担当

新型コロナウイルス ワクチン 職域接種

京都府協同組合連絡協議会(JA京都中央会、京都府漁協、京都府森連、京都府生協)の協同組合間連携により、JA京都中央会の呼びかけで、生協役員・関係団体役員やその家族を対象としたワクチン接種の機会をいただきました。

2023年3月26日(日)に会員生協から合計22人が接種を受けました。

マスコミ関係者との懇談会

2023年3月28日(火)、京都大学楽友会館会議室で、京都に支局を置く新聞・放送編集者との懇談会を開催しました。

開会にあたり、京都府生協連・西島秀向会長理事とKBSS京都報道制作局・南哲也局長があいさつをのべました。京都生協・サステイナブル推進部・上羽祐子マネージャー、京都大学生協・國見伸行専務理事、立命館生協・風折昌樹専務理事、京都府庁生協・本多浩理事長より、それぞれの生協の特徴的な取組みについて報告し、懇談しました。京都府生協連・畑忠男副会長理事が閉会のあいさつをのべました。

きょうとさん「第4回ひとひとりぼっちをつくらない社会をめざす集い」

2023年2月11日(土)、ひとひとりぼっちをつくらない社会をめざす京都の会が主催、京都府・京都市社会福祉協議会、京都新聞社会福祉事業団の後援で開催されました。会場とオンラインでおこなわれ、全国から300人の参加がありました。

(※)尾藤廣喜弁護士が代表。きょうとさん京都支部を中心に、京都生協や京都中小企業家同友会などが参加。

今回のつどいは、新型コロナウイルス感染拡大で浮き彫りになった、さまざまな医療や福祉に係わる問題について話し合い、「なによりも命を守ることを最優先する社会のあり方」について考える場として開催されました。

日本障害者協議会・藤井克徳代表(きょうとさん専務理事)より「命を守る社会づくり、その仕組みと私たちの役割」をテーマに基調講演がありました。過去から、障害のある人をめぐる看過できない事象は数多くあるが、コロナ禍により、さらに顕著になった。ひとりぼっちをつくらない実践と運動を京都から期待していると話されました。

基調講演を受けておこなわれたトークセッションでは、尾藤廣喜代表(いのちのとりで裁判全国アクション共同代表)、藤井克徳氏、京都府保健医療協会・中村暁事務局長がパネラーとなり、今の社会が抱えている問題や課題の解決に向けて求められることについて意見をのべられました。

会場発言では、(福)あらぐさ福祉会・永崎靖彦氏から、コロナ禍から見えた障害者支

学習会「ケアラーの実態と支援について考える」開催

援の実態について、(公社)認知症の人と家族の会京都支部・越野稔氏から、2024年度に改定される、介護保険制度の内容についての懸念、立命館大学・斎藤真緒教授から、「ケアラー支援条例をつくろう! ネットワーク京都」の活動紹介がありました。最後に、全体のまとめと閉会あいさつが、京都生協・川村幸子副理事長からありました。

2023年3月24日(金)、

会場とオンラインで開催し、会員生協役員など、25人が参加しました。家族や身近な人の介護や看病、日常生活の世話をするケアラーには、身体的、精神的、経済的に大きな負担がかかっており、ヤングケアラー(18歳未満)の場合には、学校生活や将来の生



立命館大学・津止正敏教授

活にも影響を及ぼすともいわれています。ケアラーの実態は、多くが家庭内でおこっていることから表面化しにくく、支援が届きにくいという状況があります。

今回の学習会では、ケアラーの実態や課題、求められる支援を理解し、考えることを目的に開催しました。講演では、立命館大学・津止正敏教授(日本ケアラー連盟代表者会議理事・男性介護者研究会代表)から「ケアラーの実態と支援について」をテーマにお話をいただきました。

ヤングケアラーを支援する活動の紹介として、2022年4月に設立された、京都府ヤングケアラー総合支援センターの、相談員・前田昌恵氏にヤングケアラーの実態と活動のご紹介をいただきました。

京都府(市)食品衛生監視指導計画案パブリックコメント

2023年2月28日(火)、令和5年度、京都府食品衛生監視指導計画について、3月1日(水)、京都市食品衛生監視指導計画について、意見を提出しました。意見書は、当会ホームページ「資料集・政策提言」欄に掲載しています。

# 京都府生協連 第44回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ

## サイバー攻撃への対策について

～自生協の危機管理対策を見直す機会へ～

2023年1月17日(火)、オンラインにて開催。役員22人が参加しました。西島秀向会長理事が開会のあいさつをおこない、高取淳専務理事がコーディネーターをつとめました。

不正な方法でシステムに侵入し、危害を加えるサイバー攻撃は、年々手口が巧妙化しており、被害も拡大傾向にあり、事業に与える影響も大きく、将来起こりうるリスクを



日本生協連・浅木知里部長

把握して適切な対策を講じることが重要になっています。今回は、サイバー攻撃の種類、事業体や個人が取るべき対策について学び、自生協の危機管理対策を見直す機会になることを目的に開催しました。はじめに、日本生協連事業企画・デジタル推進本部システム企画部・浅木知里部長より「2022年10月9日にラ



日本生協連・久保田哲治氏

ンサムウェア感染によって甚大な業務影響が発生したなら「コープ様の支援概要」について、報告がありました。

つぎに同・システム推進グループ・久保田哲治氏と、同・本池正人氏から「サイバー攻撃への対策」について講演がありました。システム技術対策と職員教育や訓練等の組織運営的対策の両方が必要なこと、不審なメールを受信した際の運用ルール等について報告されました。



日本生協連・本池正人氏

つづいて、京都生協サステイナブル推進部・中垣延広氏

SR担当より「京都生協の取り組み」についての報告のあと、意見交流しました。



京都生協・中垣延広氏

参加者からは「サイバーセキュリティについては、内部だけでなく、外部の専門家等も活用して構築していく必要性を感じました」「攻撃メールの訓練は、重要で効果的だと感じた」「セキュリティ対策はコストではなく、投資だと聞き、実感した」などの意見がありました。



熱心に報告を聞く参加者

### おもな行事のお知らせ

京都府生協連 第70回通常総会  
日 時：6月13日(火)  
午後3時～午後4時(予定)

会 場：京都府立総合社会福祉会館八  
ートピア京都3階大会議室

ピースバレード(2023年度  
ピースアクション京都)  
日 時：6月21日(水)

会 場：未定

2023年国際協同組合デー

第33回京都集会  
日 時：7月5日(水)午後1時30分  
～午後4時(予定)

会 場：京都JAビル

テーマ：「協同組合間協同と持続可能な未来のために(仮)」

第54回京都消費者大会

日 時：5月27日(土)午後1時30分  
～午後3時10分  
会 場：ウィングス京都研修室AB(オンライン)

テーマ：「デジタル社会と消費者のくらしについて考える」

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会 〒604-0857 京都市中京区烏丸通一条上る時絵屋町258番地 コープ御所南ビル4階  
TEL:075-(251)-1501  
URL: http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail: kyotofu-seikyoren@ma2.seikyone.jp